

小児科 *Pediatrics*

1. スタッフ構成

- 山本 英一(小児医療センター長、医療安全管理部長)
1990年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児循環器、小児救急、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本小児循環器学会小児循環器専門医、日本小児救急医学会小児救急スペシャルインタレストメンバー、日本子ども虐待医学会BEAMS認定講師、厚生労働省臨床研修指導医
- 中野 直子(主任部長、小児医療センター副センター長)
1994年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児免疫疾患、自己炎症疾患、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 森谷 友造(部長)
2003年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児循環器、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本小児循環器学会小児循環器専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 永井 功造(部長)
2003年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児血液・腫瘍、小児がん全般に対する化学療法、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本血液学会血液専門医・血液指導医、日本小児血液・がん学会小児血液・がん専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・がん薬物療法指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医
- 河邊 美香(部長)
2007年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児神経、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 越智 史博(部長)
2007年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児感染症、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本感染症学会感染症専門医、日本小児感染症学会小児感染症認定医・小児感染症認定指導医(専門医)、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター
- 吉田 安友子(医長)
2013年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児アレルギー、小児一般・保健
資格:日本小児科学会小児科専門医、日本アレルギー学会アレルギー専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 友松 佐和(副医長)

2016年愛媛大学医学部卒

専門分野:小児血液・腫瘍、小児一般・保健

資格:日本小児科学会小児科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 吉松 佳祐(医師)
2019年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児一般・保健
- 浮田 栞(専攻医)
2022年愛媛大学医学部卒
専門分野:小児一般・保健
- 江口 真理子(診療委託)
- 元木 崇裕(診療委託)
- 平井 洋生(診療委託)
- 勢井 友香(診療委託)
- 長谷 幸治(診療委託)
- 千阪 俊行(診療委託)
- 渡部 竜助(診療委託)
- 前澤 身江子(診療委託)
- 小西 恭子(診療委託)
- 小泉 宗光(診療委託)
- 石田 也寸志(診療委託)

2. 実績

■ 疾病分類別入院患者数

疾患名	患者数
呼吸器(RSを含む)	213
けいれん、神経	148
感染症	182
膠原病、自己炎症性疾患	60
消化器(胃腸炎、腸炎、腸重積含む)	117
血液腫瘍	73
気管支喘息	78
循環器	56
腎臓(尿路感染含む)	43
代謝内分泌	51
アレルギー	27
事故、虐待	33
外科系	20
COVID-19	13
その他	4
合計	1,118

■ 16 歳未満の救急搬送患者数

	患者数
救急車、ヘリ、ドクターカーでの来院患者数(全科)	1,006
三次救急での来院患者数	40
小児科患者数	898
入院した患者数(全科)	445
小児科入院患者数	387

3. 2024 年度目標

(1) 連携の推進と専門性の確保

入院が必要な患者さんや専門的な判断が必要と思われる患者さんを多くご紹介していただいています。最新の標準的な診断・治療を丁寧に検討し、紹介していただいた先生方の満足できる診断、治療、結果を得るよう診療にあたりたいと考えています。退院後は、積極的に逆紹介することで病診連携を図り、当院では、ますます高い専門性のある医療を提供していきたいと考えています。また、コロナ禍で実施できていなかった開業医の先生方との紹介症例の検討会と勉強会を開催し、情報交換ができる場を持ちたいと思います。

(2) 救急の適正化

働き方改革適用後の小児救急体制の問題は当科でも同様である一方、救急受診患者数は飛躍的に増加しています。マンパワーが制限される中で、医療の安全や質を担保した救急を構築していこうと考えています。その上で、高度・専門医療に関して愛媛の小児医療の最後の砦となるべく、他院・他科の小児チームと連携して、役割を十分に機能できるよう努力していきます。

(3) 療育

当院は NICU を併設し、救急医療からもさまざまな療育を必要とするに至る医療的ケア児がいます。そういった子どもたちの数は年々増加の一途を辿っています。この子どもたちをいかにうまく療育につなげていくか、その仕組みを構築していこうと考えています。

(4) 子ども虐待予防

子ども虐待は年々増えており、社会問題になっています。救急病院である当院は、被虐待児に関わる可能性が十分あります。医療における子ども憲章(2022 年 3 月日本小児科学会策定)を尊重し、早期に他施設や多職種機関と連携を取り合いながら、子どもたちやそのご家族をサポートし、子ども虐待予防に努めていきたいと考えています。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 山本英一. 小児科ってどんなことするの?～小児科医を続けて 30 年間～. 松山東高等学校講演会. 松山 (2023.1)
- 山本英一. 子ども虐待の基礎と対応. 令和 4 年度松山乳児院研修会. 松山 (2023.1)
- 山本英一. 災害時小児周産期リエンゾについて. 令和 4 年度松山圏域災害医療対策会議. 松山 (2023.1)
- 中野直子. FMF の診断と治療. 家族性地中海熱を検討する会. 松山 (2023.1)
- 山本英一. 医療機関対象虐待研修プログラム BEAMS stage1. 愛媛大学医学部開催. 東温 (2023.2)

- 石田也寸志. 自立支援事業と移行期医療. 令和 3-5 年度補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))小児慢性特定疾病児童等の自立支援に資する研究(檜垣班). Web 開催 (2023.2)
- 中野直子、吉松佳祐、杉海秀、吉田安友子、河邊美香、森谷友造、永井功造、山本英一、石田也寸志. 新型コロナウイルスワクチンにより再燃した若年性皮膚筋炎. 第 5 回日本アレルギー学会中国・四国地方会. 山口 (2023.3.4)
- 石田也寸志. 二次がんのスクリーニングの重要性～小児がんの立場から～(シンポジウム). 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡 (2023.3.16-18)
- 石田也寸志. 小児がんの長期フォローアップと移行医療. 第 4 回群馬小児がんセミナー. 群馬・Web 開催 (2023.3)
- 永井功造. 小児がん患者と共にあゆむ「食」について. 愛 Giver project 啓発事業. 松山 (2023.3)
- 山本英一. 外来や乳幼児健診、心臓検診でみつかる心疾患. 愛媛県立中央病院第 125 回医療連携懇話会. 松山 (2023.4.12)
- 森谷友造. 広がるカテーテル治療～こどもから大人まで～. 愛媛県立中央病院第 125 回医療連携懇話会. 松山 (2023.4.12)
- 中野直子. 誰でもはじめられる関節エコー. 血友病セミナー・第二部. 松山・Web 開催 (2023.4)
- 杉海秀、河邊美香、元木崇裕. てんかん性スパズムに対し、ステロイド療法が有効であった一例. 第 65 回日本小児神経学会学術集会. 岡山 (2023.5.25-27)
- 杉海秀、河邊美香、森谷友造、竹本隼、友松佐和、吉田安友子、永井功造、中野直子、山本英一、宮寄航、近藤剛、野口伸一. 重度の後遺症を残した幼児期発症の中腸軸捻転症の一例. 第 105 回日本小児科学会愛媛地方会. 松山 (2023.5.28)
- 竹本隼、吉田安友子、友松佐和、杉海秀、河邊美香、永井功造、森谷友造、中野直子、山本英一、宮寄航、近藤剛、野口伸一、北畑翔吾、壺内栄治. 磁気チタンネックレス誤飲により消化管穿通を起こした 1 例. 第 105 回日本小児科学会愛媛地方会. 松山 (2023.5.28)
- 中村綾花、中野直子、竹本隼、友松佐和、杉海秀、吉田安友子、河邊美香、永井功造、森谷友造、河上早苗、山本英一、石田也寸志. 5-アミノサリチル酸製剤不耐を呈した潰瘍性大腸炎. 第 105 回日本小児科学会愛媛地方会. 松山 (2023.5.28)
- 山本英一. 児童虐待の基礎と胎児期～ゼロ歳児からの虐待予防. 愛媛助産師会令和 5 年度春季研修会. 松山・Web 開催 (2023.5)
- 永井功造. 新たな小児がん治療のブレークスルー～分子標的治療と免疫療法を中心に～. 松山小児科会. 松山 (2023.5)
- 山本英一. 医療機関対象虐待研修プログラム BEAMS stage1. 愛媛県立中央病院開催. 松山 (2023.6.19)
- 石田也寸志. 小児がんサバイバーの二次がん研究:2 つの後向きコホート研究. 愛媛県立医療技術大学臨床検査学科セミナー. 砥部 (2023.6)
- 山本英一、森谷友造、石田也寸志、小西恭子、千阪俊行、渡部竜介、檜垣高史. 大動脈弁閉鎖不全、心筋肥厚を合併したムコ多糖症 II 型の双胎児の経験. 第 59 回日本小児循環器学会学術集会. 横浜 (2023.7.6-8)
- 山本英一. 子どもを生かす、システムを生かす～小児救命救急センターとメディカルコントロールの展望～「地域における小児救急現状と PICU 設置の困難さ」(パネルディスカッション). 第 36 回日本小児救急医学会学術集会. 千葉 (2023.7.22-23)
- 藤原優子、山本英一. 小児救急の現場でチームパフォーマンス向上のための心理的安全性確保のために「当院における小児救急現場での心理的安全性確保の現状と課題」(パネルディスカッション). 第 36 回日本小児救急医学会学術集会. 千葉 (2023.7.22-23)
- 石田也寸志. 小児がんの長期フォローアップに関するこれまでの研究. 愛媛県立医療技術大学 FD デベロップメントセミナー. 砥部 (2023.7)
- 杉海秀、山本英一. 乳幼児の救急蘇生について. 愛媛県小児科医会主催「乳幼児の救急蘇生についての講習会」. 松山 (2023.7)
- 山本英一. 児童虐待の基礎と胎児期～ゼロ歳児からの虐待予防. 伊予市こども家庭センター職員児童虐待に関する研修会. 伊予 (2023.8)
- 山本英一. ①急病時の子どものみかたと受診の目安②子ども虐待の基礎と対応. 令和 5 年度中四・四国地区乳児院研究協議会. 松山・Web 開催 (2023.8)
- 山本英一. 新生児～2 週間、1 か月、3～4 か月児健診. 日本小児医療保健協議会主催「幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 PartVI (第 1 回)」. Web 開催 (2023.8)
- 永井功造. 病気が治っても終わりではない?社会復帰に立ちはだかる問題と支援について. 「世界小児がん啓発キャンペーン Smile action in 愛媛」市民公開講座. 松山 (2023.9.9)
- 林三枝、石田也寸志. 就労困難な小児がん経験者への就労支援. 第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会. 札幌 (2023.9.29-10.1)
- 石田也寸志、林三枝、真部淳、柳沢隆昭、米田光宏、木下義晶、稲田浩

子、大園秀一、小川淳、松本公一。ハートリンク共済で入院給付金を受給した小児がん経験者の外科手術内容。第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会。札幌 (2023.9.29-10.1)

33. 鈴木優里、永瀬恭子、郡司美千代、小林京子、細要介、長谷川大輔、石田也寸志、真部淳、小澤美和。長期フォローアップレベルと晩期合併症の関連：聖路加生涯コホート研究より。第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会。札幌 (2023.9.29-10.1)
34. 永井功造、市川晴久、河邊美香、河上早苗、大上史郎、石田也寸志。術前の mTOR 阻害剤投与により良好に切除し得た上衣下巨細胞性星細胞腫の 1 例。第 65 回日本小児血液・がん学会学術集会。札幌 (2023.9.29-10.1)
35. 中野直子。小児 IBD の疫学と診断・治療について。愛媛県病院薬剤師会中予支部令和 5 年度第 6 回 Web 研修会。松山・Web 開催 (2023.9)
36. 岡本千愛、永井功造、武田千津、本多伸光、阿部カナエ、松本和美、井上由美、名和由一郎。当院の AYA 世代がん支援チームの活動指針～緩和ケアスクリーニングからの一考察～。第 36 回日本サイコオンコロジー学会総会。奈良 (2023.10.6-7)
37. 竹本隼、中野直子、友松佐和、杉海秀、吉田安友子、河邊美香、永井功造、森谷友造、山本英一。大量ステロイド治療により回復したマクロファージ活性化症候群合併の全身性エリテマトーデス。第 32 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会。埼玉 (2023.10.13-15)
38. 森谷友造、山本英一。当院での川崎病治療戦略～コロナ流行を経ての変化～。第 17 回愛媛発達心臓病研究会。松山 (2023.10)
39. 河邊美香。医療 1.障害がある子どもの成長と発達の特徴、医療 2.日常生活における支援。令和 5 年度愛媛県医療的ケア児等支援者養成研修。Web 開催 (2023.10)
40. 山本英一。医療機関対象虐待研修プログラム BEAMS stage1&2。愛媛県立中央病院開催。松山 (2023.11.11)
41. 中平啓倫、竹本隼、友松佐和、杉海秀、吉田安友子、河邊美香、永井功造、森谷友造、中野直子、山本英一。乳児期早期に発症したバレコウイルス感染症の 1 例。第 106 回日本小児科学会愛媛地方会。松山 (2023.11.26)
42. 山本英一。子ども虐待～基礎と対応～わたしたちにできること。香川県立中央病院主催「こども虐待対応に関する研修」。高松 (2023.11)
43. 山本英一。病气やけがの子どものみかた救急車～よぶか、よばないか悩むう～。令和 5 年度松山市医師会園医会総会。松山 (2023.11)
44. 山本英一、近藤陽一。愛媛県児童虐待防止医療ネットワークについて。第 75 回愛媛県産婦人科医会学術集談会。松山 (2023.11)
45. 河邊美香。病气やけがの子どもの方～小児の意識障害、けいれんやてんかん発作について～。令和 5 年度松山市医師会園医会総会。松山 (2023.11)

(2) 論文・著書

1. Okada H, Irie W, Sugahara A, Nagoya Y, Saito M, Sasahara Y, Yoshimoto Y, Iwasaki F, Inoue M, Sato M, Ozawa M, Kusuki S, Kamizono J, Ishida Y, Suzuki R, Nakajima-Yamaguchi R, Shiwaku H. Factors associated with employment status among mothers of survivors of childhood cancer: a cross-sectional study. Support Care Cancer 31(3). 168 (2023.2)
2. Ozono S, Sakashita K, Yoshida N, Kakuda H, Watanabe K, Maeda M, Ishida Y et al. A nationwide survey of late effects in survivors of juvenile myelomonocytic leukemia in Japan. Pediatric Blood&Cancer 70(2). e30126 (2023.2)
3. 森谷友造、山本英一、三浦博充、野間真衣子、河上早苗、今井剛、中野直子、石田也寸志。新型コロナウイルスワクチン接種後に心筋炎/心膜炎と診断された 3 例の臨床像。愛媛県小児科医会雑誌 4(1). 35-39 (2023.5)
4. 黒部裕嗣、新岡俊治、平田陽一郎、福西琢真、森谷友造、倉田美恵、坂上倫久、檜垣高史、泉谷裕則。生体分解性素材を用いた医療デバイスの開発。愛媛医学 42(3). 119-126 (2023.9)
5. Kishi T, Nakano N, Narazaki H, Yashiro M, Hashimoto K, Shinoki T, Sato T, Kinjo N, Imanaka H, Bando Y, Inamo Y, Yamazaki K, Okamoto N. Survey of diversity awareness and environment among members of the Pediatric Rheumatology Association of Japan. PEDIATRICS INTERNATIONAL 65(1). doi: 10.1111/ped.15654 (2023.10.13)
6. Nishimura A, Yokoyama K, Naruto T et al. Ishida Y, Takagi M. Myeloid/Natural Killer(NK) Cell Precursor Acute Leukemia as a Distinct Leukemia Type. Science Advances 9(50). doi:10.1126/sciadv.adj4407 (2023.12)
7. 中野直子。10.自己抗体検査 4.臓器非特異的自己抗体—抗核抗体以外。子どもの検査値の判断に迷ったら 2023 年 12 月臨時増刊号 64 巻(13 号)金原出版。(2023.12)
8. 永井功造、石田也寸志。小児がん経験者の長期フォローアップについて。日本がん・生殖医療学会・2023 血液内科 85(2). 202-211 (2023)